

## 早掘かんしょ推奨品種「ベニアズマ」

県農業試験場園芸支場 畑作部(現、農業研究センター農産園芸研究所作物部)

### 研究のねらい

本県のかんしょ栽培は「高系14号」による5～6月植付、1～3月出荷の“貯蔵用かんしょ”栽培が中心である。

しかし、近年栽培規模の拡大がみられ労力配分等から作型が早まる傾向にあるため、早掘に適する品種の選定を行った。

### 研究の成果

早掘栽培に適する品種として「ベニアズマ」を選定した。

#### ベニアズマの特性

1. 早掘における品質は、「高系14号」に比べ肉色は黄色が濃く、肉質は粉質強く、甘味も強いいため食味が優れる。また、皮色は赤紫で濃く、上いも歩合が高い。
2. 栽培面では、萌芽性が良いため苗の確保が容易である。また、「高系14号」に比べ耐肥性が強いいためつるぼけしにくく、ネコブセンチュウ耐性もやや強いいため、野菜等との作付体系も可能となる。
3. 早期肥大性、いも数、上いも重は「高系14号」と同程度である。
4. 肥大性が優れるため、在圃期間が長くなるといもが大きくなり条溝がでやすく、外觀が不良となりやすい。このため、4月下旬から5月下旬植えにおける掘取りの適期は、植付後130日程度である。
5. いもの貯蔵は、「高系14号」に比べ黒斑病に弱く、また貯蔵により肉質が粘質になり易いため、貯蔵性は劣る。
6. 以上のことから、ベニアズマは4月から5月植付、8月から10月収穫の“早掘品種”として有望である。

表1 ベニアズマの特性

品種	萌芽性	掘取の難易	いもの形状	皮色	蒸しいもの品質			貯蔵性
					肉色	内質	食味	
ベニアズマ	良	中	肩張紡錘形	赤紫	黄	粉質	中上～上	やや劣
高系14号	やや不良～不良	易	紡錘形	紅	淡黄～黄	粉質	中	良

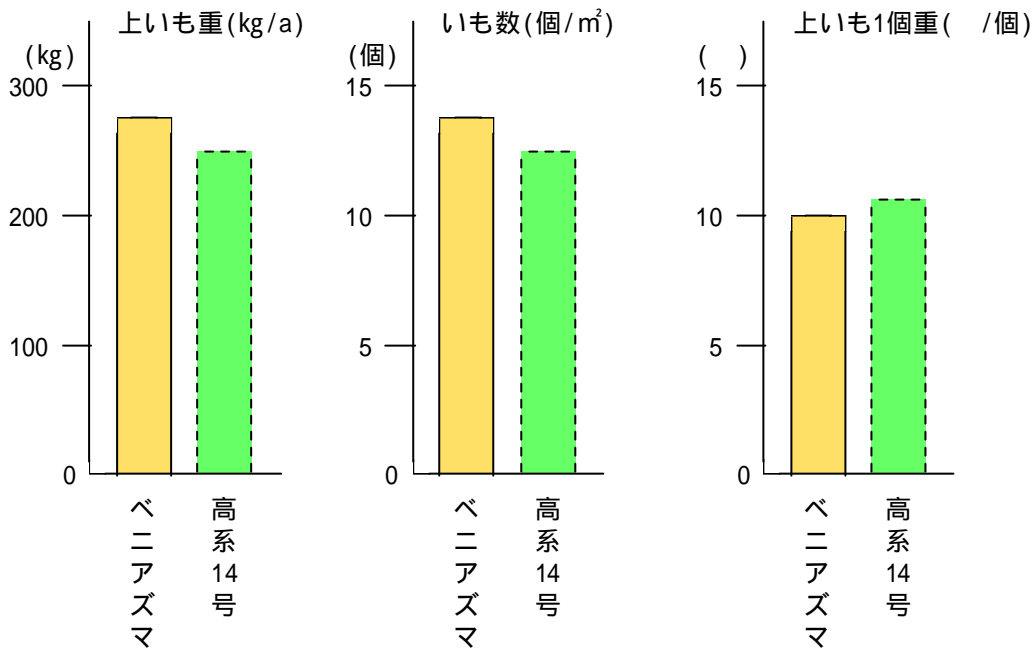


図1 収量(昭和57～62年の平均)



写真 外観(4個ともベニアズマ)と断面